

狭山市制施行60周年記念・狭山市文化団体連合会設立15周年記念 第15回狭山市民芸術祭に向けて

鬼が笑う来年の話ですが…

平成 27年2月17日～22日に開催予定の、第15回狭山市民芸術祭は、文団連設立15周年記念と、狭山市制施行60周年記念を冠しての開催を予定し、3月に検討委員会が立ち上がりました。

狭山市が還暦を迎え、新しい第一歩を踏み出す年にちなみ、「狭山」を満載にしようと考えております。

自分が住む街に対する関心は人それぞれですが、私事でお話すれば、私自身は北海道出身、ですが既に狭山での生活が一番長く、終の棲家となる街。また何より、子供にとっては生まれ育った故郷、そして、孫にとって狭山は、安全性を含め、その人生に大きく影響する大切な街です。

その街がどのような個性を持つか… 実は私たちが日ごろ生活をしている広義の文化そのものが、街の色合いになっていきます。

街づくりをしている主役は、私たち市民なのです。

狭山市は素敵な街です。深い歴史や豊かな自然はもちろんですが、素晴らしい活動をしている団体や個人の方々も大勢いらっしゃいます。

まずは知って下さい。狭山の魅力を再認識してみましょう。愛着を持てることで大切。お子さんやお孫さんも郷土愛を持つ子は、きっとたくましく成長します。

来年の芸術祭は、そんな狭山の魅力を満載にしようとして、今会員が、心熱く、市民の皆さまにも参加をして頂く事を視野に、企画を立てています。

また今年の10月1日～3日に気仙沼 鹿折小学校の子どもたちを狭山にご招待し、修学旅行をプレゼントしようとして東奔西走していらっしゃる「気仙沼と共に歩む会 さやま」の方々を心から応援し、鹿折小学校の子どもたちの感想なども、パネル展示などでご紹介して頂く予定です。

笑い飛ばしていた鬼の目に涙があふれ、ご来場下さった皆様に、共に狭山の素敵な第一歩を創っていかうと思って頂けますよう、会員一同、頑張ってお参りますので、応援よろしくお願ひ申し上げます。

会長 横山美衣(千枝子)



第14回狭山市民芸術祭

文団連合の総力結集の成果が実る 更なる集客向上が課題

厳冬で大雪に見舞われた2月、18日(火)から狭山市市民会館と共催で、テーマを「愛」とし、文化の発信と継承を願って展示と舞台発表等を行い無事おわた。折角の催し、より多くの来客を望みたい。(会報 高沢正夫)